

知っていますか？ 郷土の民話

身近に残る様々な民話

私たちのふるさとは、古くから多くの民話が伝えられてきました。おじいさんやおばあさんからお父さんやお母さんへ、お父さんお母さんから子どもへと、代々伝えられてきたのです。

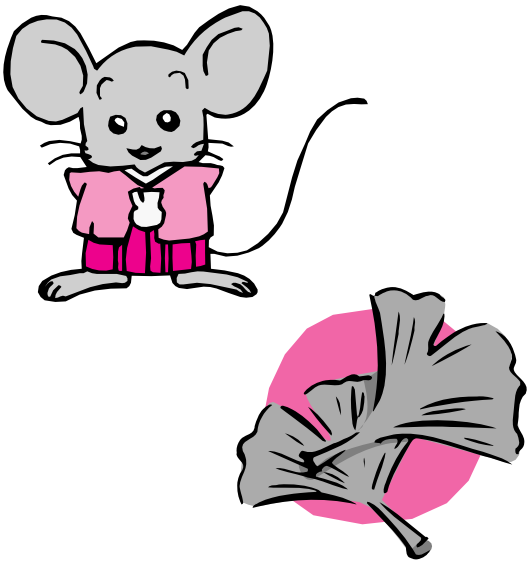
しかし、このような民話が、消えて行くことになっています。映画やテレビのドラマ、そして様々な雑誌やインターネットなどの情報があふれている現在、民話が魅力的で無くなってしまったことが理由の一つです。科学の進歩に伴い、非科学的な出来事を信じなくなった風潮も理由の一つでしょう。それ以上に大きな理由は、核家族化が進み、そして家族同士のふれあいが無くなってしまい、語り伝える場面、つまり昔ながらの家族のどんらんの機会が少なくなってしまうことが原因と考えられます。ある程度年配の方なら、寝物語に地元で伝わる民話を聞いたり、縁側で民話を聞かされたりした思い出があると思いますが、このような風景はいまや過去のものになりつつあります。

現在と比較すると娯楽が少なかった当時、ある意味単調な日常生活の中での出来事や、心の中に思い浮かんだ事柄を、人々の心に残るように表現したのが民話であり、それが本当の話かどうかは別にして、私たちの祖先の心に触れ合うことのできる貴重な歴史の資料でもあります。また、これ

らの話の中には、私たちが失いつつある、郷土に対する深い愛情と誇りに思う気持ちが溢れていることも特徴の一つにあげられます。

上三川町に伝わる民話については、上三川町文化研究会が、聞き取りなどを行って、「上三川町の伝説と民話」（昭和46年）「上三川町の伝説と民話続編」（昭和51年）の2冊に、代表的な56のお話をまとめています。今年度はここから選んだ11のお話を、来月号から紹介いたします。

日ごろ、通り過ぎるだけの身近な場所や、町に古くから伝わる文化財について、皆さんが知らなかった話も多く含まれています。これらの話から郷土かみのかわの意外な側面を見つけていただければと思います。



たね俳句

まのびした鶏の声きく日永かな

浜野 正男

手のひらを取り皿にして木の芽和え

大八木喜重郎

春を待つ唯其れだけに日日を生く

柳田 石村

ゆらめくは朱の鳥居あかか陽炎かげろうか

蓬田 四方

田の耕人大方ななそ七十のふしくれ手

伊沢 静香

亡き母の味に届かぬ芹の味

濱野 マス子

春の空球児の歓声広がりぬ

阿部 信子

早春の風にまどろむ仔牛かな

野沢 花枝

逆立ちに挑戦する児風光る

上野 キミエ

軽やかに棲先返す春の風

武井 ミイ子

